

那須塩原市「CO₂排出量実質ゼロ」宣言

地球温暖化や気候変動が及ぼす影響については、近年、世界中で異常気象、海面の上昇、生態系の変化等が観測され、本市においても将来的なリスクとして、洪水や豪雨、河川や湖沼の水質悪化、豊かな生態系の崩壊、熱中症や感染症リスクの増加、農作物の生産性の低下等が予測されております。

昨年公表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では、気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年頃にCO₂排出量を実質ゼロにする必要があることが示されております。

また、気候変動への具体的な対策については、SDGsにおけるグローバル目標の一つであり、気候変動と持続可能な開発は、密接な関係を有しています。

このようなことから、本市は、地球温暖化や気候変動といった地球規模の課題を地域レベルで考え、サステナブルシティ那須塩原を広くアピールするとともに、多くの皆様の理解や問題意識を深める契機として、2050年までにCO₂排出量実質ゼロを目指すことを宣言し、その実現に向けた取組を推進してまいります。

令和元年12月 3日

那須塩原市長

渡辺美知太郎